

18歳意識調査

「第51回 -コロナ禍と旅行・インバウンド-」

報告書

日本財団 2022年12月8日

目次

調査概要	3
結果概要	4
1. 水際対策緩和に対する考え	
インバウンド促進に対する考え	6
水際対策緩和に関する認知	8
水際対策緩和に対する考え	10
アウトバウンドに対する考え	13
2. 国内観光需要喚起策に対する考え	
国内の観光需要喚起策に関する認知	18
国内の観光需要喚起策に対する考え	20
3. コロナ禍における旅行に対する考え	
コロナ禍における旅行意欲	26
コロナ禍における旅行スタイル	28
円安による観光への影響	30
示唆	33

調査概要 「18歳意識調査」 -コロナ禍と旅行・インバウンド-

調査対象

全国の17歳～19歳男女

回答数

1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男性	168	170	176	514
女性	159	160	167	486
計	327	330	343	1,000

実施期間

2022年10月21日（金）～10月25日（火）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

第51回18歳意識調査「コロナ禍と旅行・インバウンド」 結果概要

1 水際対策緩和 に対する考え

- ① 政府の水際対策緩和については、約8割が「知っていた」と回答。
- ② 約7割は政府の水際対策緩和について「賛成」と回答。
- ③ 水際対策緩和によって、約6割は「海外旅行に行きたいと思う」と回答。

2 国内需要喚起策 に対する考え

- ① 政府が国内の観光需要喚起策を実施していることについて、約7割が「知っていた」と回答。また、約8割が実施することについて「賛成」と回答。
- ② 国内旅行をすることとなった場合、約7割は「全国旅行割を使いたい」と回答。

3 今後の旅行意欲

- ① 新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、約3割は海外へ行くことを断念した経験があり、約6割は国内での移動や旅行を断念した経験がある。
- ② 約6割がコロナ収束後の旅行に対する意欲が「高くなる」と回答。

4 今後の観光客数 に対する考え

- ① 約8割が政府によるインバウンドの積極的な誘致に「賛成」と回答。
- ② 円安の影響と水際対策緩和の影響を総合的に考え、インバウンドが「増加する」と回答した人は7割弱。一方で、アウトバウンドが「増加する」と回答した人は4割弱。

5 属性による特徴

- ① 女性よりも男性の方がインバウンドの促進やアウトバウンドの増加に賛成と回答した人の割合が高い。
- ② 女性よりも男性の方が海外に行きたいと思うと回答した人の割合が高い。

詳細

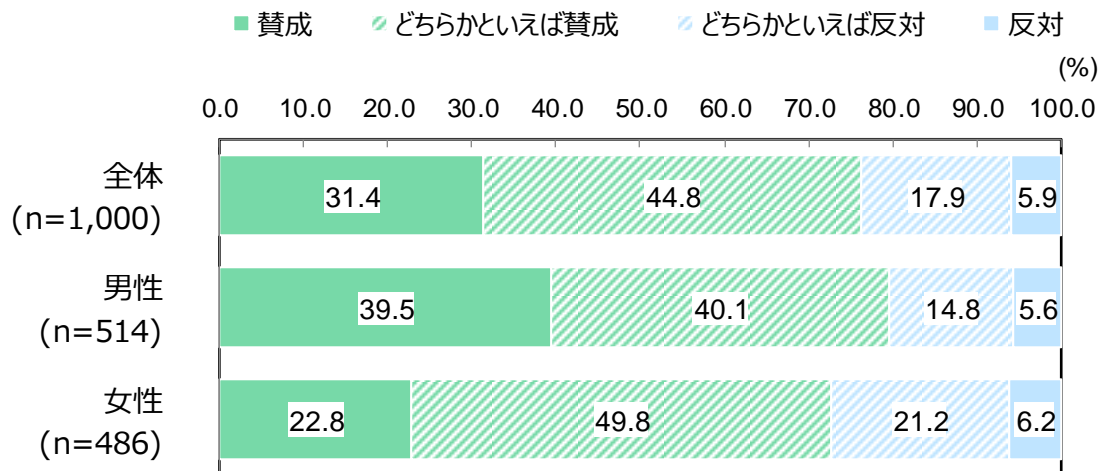
1. 水際対策緩和に対する考え
2. 国内観光需要喚起策に対する考え
3. コロナ禍における旅行に対する考え

インバウンド促進に対する考え

政府が海外からの観光客誘致に積極的に取り組むことについて、「賛成」(※)と回答した人は全体で約8割。性別では、男性の方が女性よりも「賛成」(※)と回答した人の割合が高い傾向。

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

質問1：新型コロナウイルスの感染拡大前の2019年には訪日外国人旅行者数が3,188万人となり、その消費額も4.8兆円にのびりました。あなたは、政府が海外からの観光客誘致に積極的に取り組むことについて、どのように考えますか。(選択式(単一))



提示文章

日本政府は、新型コロナウイルスの水際対策（※）を徐々に緩和しています。

※新型コロナウイルスが海外から上陸することを阻止するための対策のこと。

2022年3月1日からは、日本入国後の自宅待機期間が原則7日間だったものが最短3日間となり、日本と海外との国際的な往訪がしやすくなりました。

2022年9月7日からは1日当たりの入国制限が2万人から5万人に引き上げられ、日本への入国者に求めてきた出国前72時間以内の検査証明の提出については、有効なワクチン接種証明書があれば免除されることとなりました。また、観光目的の外国人の入国についても、これまでは添乗員付きのパッケージツアーのみが認められていましたが、搭乗員を伴わないパッケージツアーも認められることになりました。

2022年10月11日からは、更なる水際対策の緩和が実施され、個人旅行の解禁等の入国制限の見直し、ビザなし渡航の解禁、入国後の自宅待機が求められなくなる等の検査等の見直し、入国者数の上限撤廃が行われた。

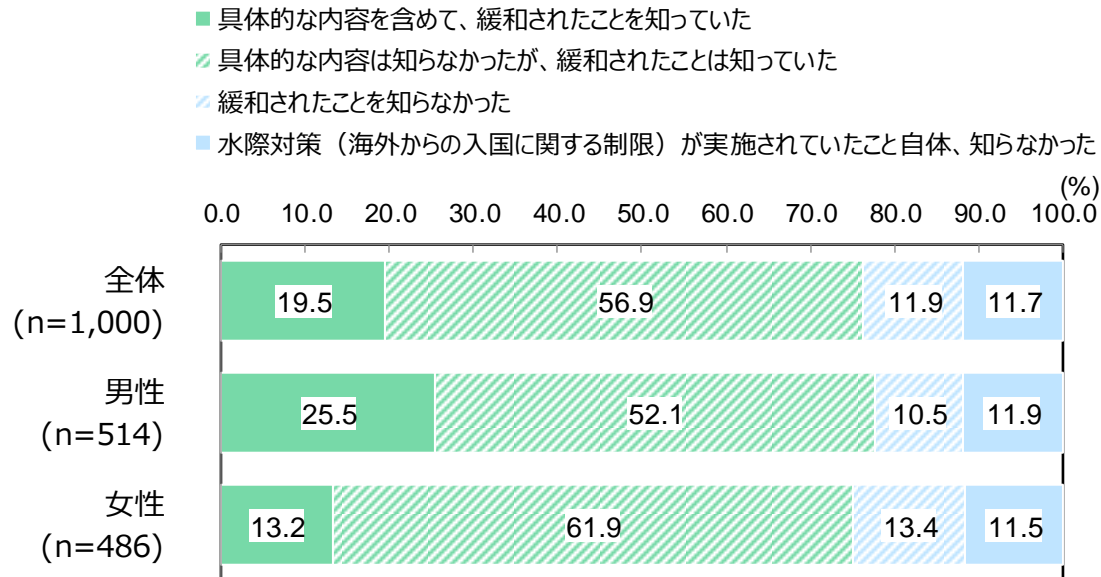
ここからは、政府の新型コロナウイルスの水際対策やコロナ禍における旅行に対するあなたの考えについておうかがいします。

水際対策緩和に関する認知

政府が新型コロナウイルスの水際対策を緩和していたことについて、全体では約8割が「知っていた」(※)と回答。性別では、男女とも同様の傾向。ただし、女性よりも男性の方が「具体的な内容を含めて、緩和されたことを知っていた」と回答した人が多く、約3割を占める。

※ 「具体的な内容を含めて、緩和されたことを知っていた」と「具体的な内容は知らなかったが、緩和されたことは知っていた」の合計。

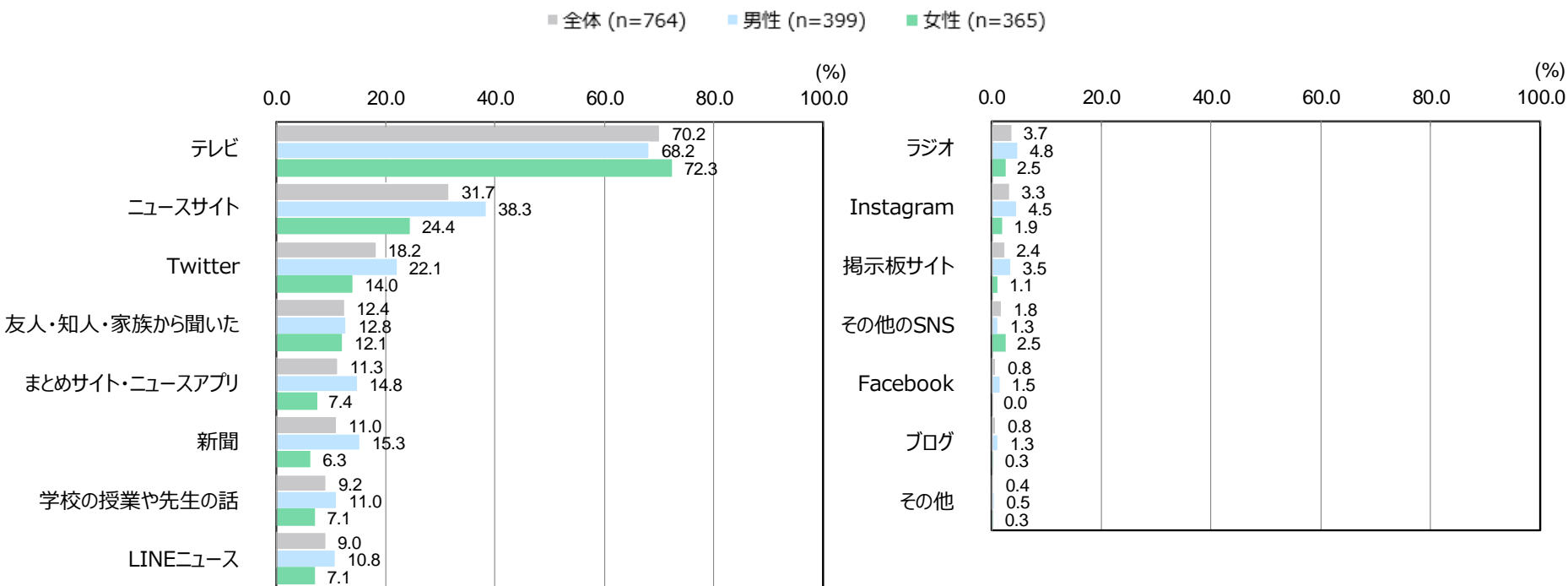
質問2：あなたは、政府が新型コロナウイルスの水際対策を緩和していたことを知っていましたか。（選択式（単一））



水際対策緩和に関する認知

新型コロナウイルスの水際対策の緩和について知った媒体としては、男女とも、「テレビ」、「ニュースサイト」、「Twitter」の順に多い。

質問3：政府の新型コロナウイルスの水際対策の緩和について、どのように知りましたか。
（選択式（複数））

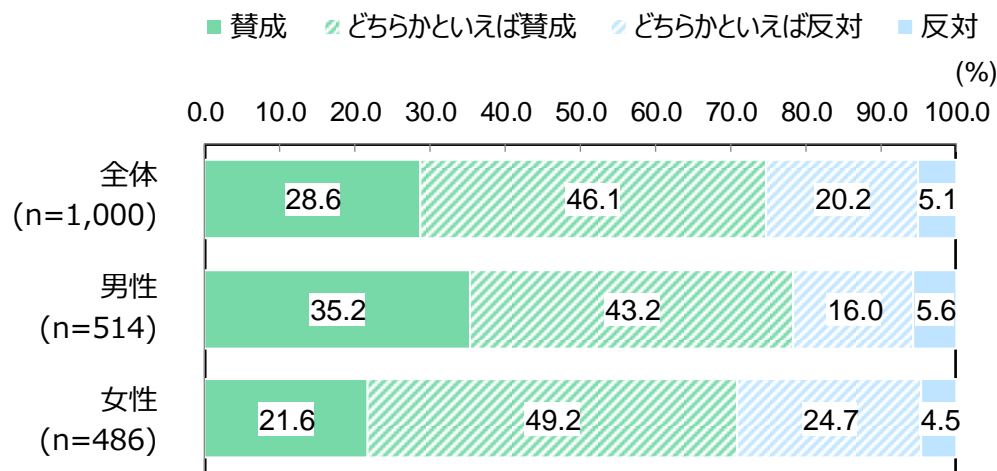


水際対策緩和に対する考え

海外からの観光客の受け入れについて、「賛成」(※)と回答した人は全体で約7割。性別では、男性の方が「賛成」(※)が8割弱と女性と比べて多い。

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

質問4：あなたは、政府の新型コロナウイルスの水際対策の緩和によって、2020年以降激減していた日本への海外からの観光客が受け入れやすくなることについて、どのように考えますか。(選択式(単一))



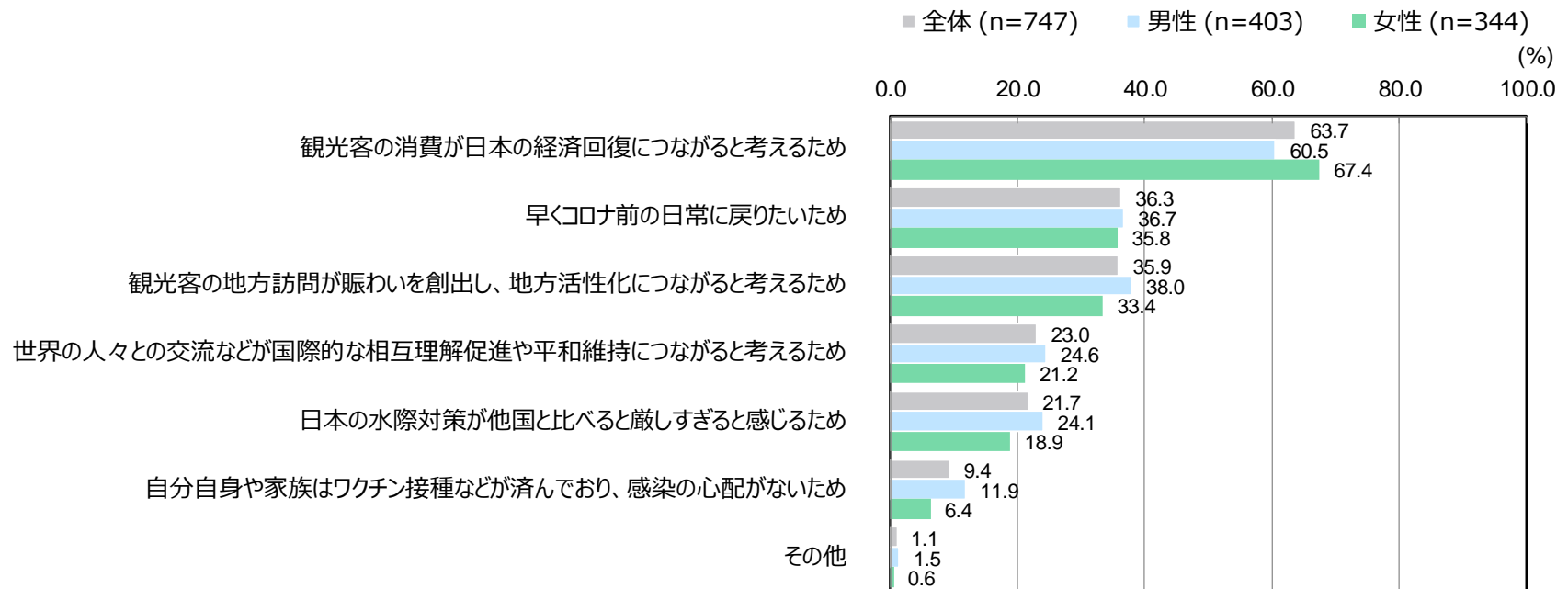
水際対策緩和に対する考え

賛成理由

水際対策緩和の賛成理由（※）として、男性では「観光客の消費が日本の経済回復につながる」、「観光客の地方訪問が賑わいを創出し、地方活性化につながる」、「早くコロナ前の日常に戻りたい」の順に回答した人が多く、女性では「観光客の消費が日本の経済回復につながる」、「早くコロナ前の日常に戻りたい」、「観光客の地方訪問が賑わいを創出し、地方活性化につながる」の順に多い。

※「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」と回答した理由。

質問5：あなたが、水際対策緩和によって海外からの観光客を受け入れやすくすることに賛成する理由として、あてはまるものを3つまで選んでください。（選択式（複数））



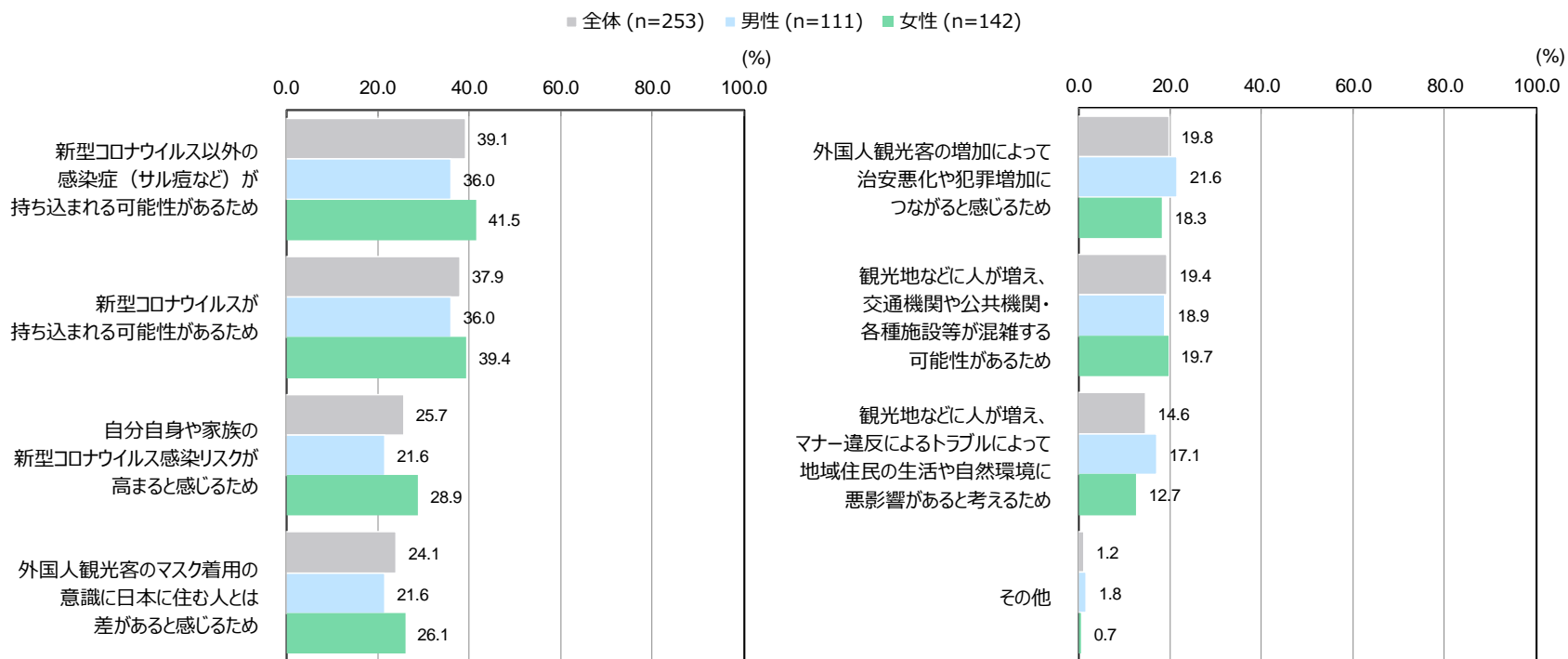
水際対策緩和に対する考え

反対理由

水際対策緩和の反対理由（※）として、男女とも、「新型コロナウイルス以外の感染症（サル痘など）が持ち込まれる可能性がある」、「新型コロナウイルスが持ち込まれる可能性がある」と回答した人が多い。

※「反対」もしくは「どちらかといえば反対」と回答した理由。

質問6：あなたが、水際対策緩和によって海外からの観光客を受け入れやすくすることに反対する理由として、あてはまるものを3つまで選んでください。（選択式（複数））

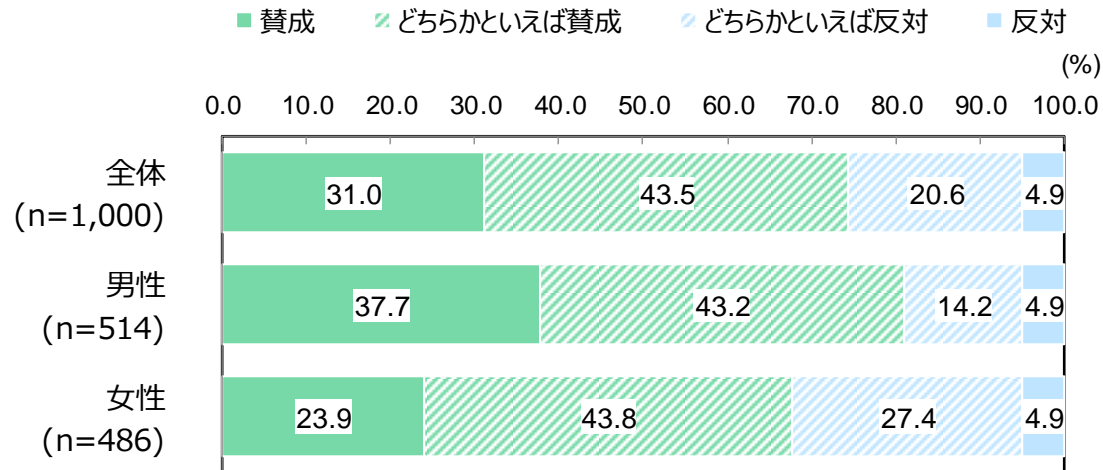


アウトバウンドに対する考え

日本に住む人が海外との往来がしやすくなることについて、全体では約7割が「賛成」^(※)と回答。性別では、女性よりも男性の方が「賛成」^(※)と回答した人が多く、8割を超えている。

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

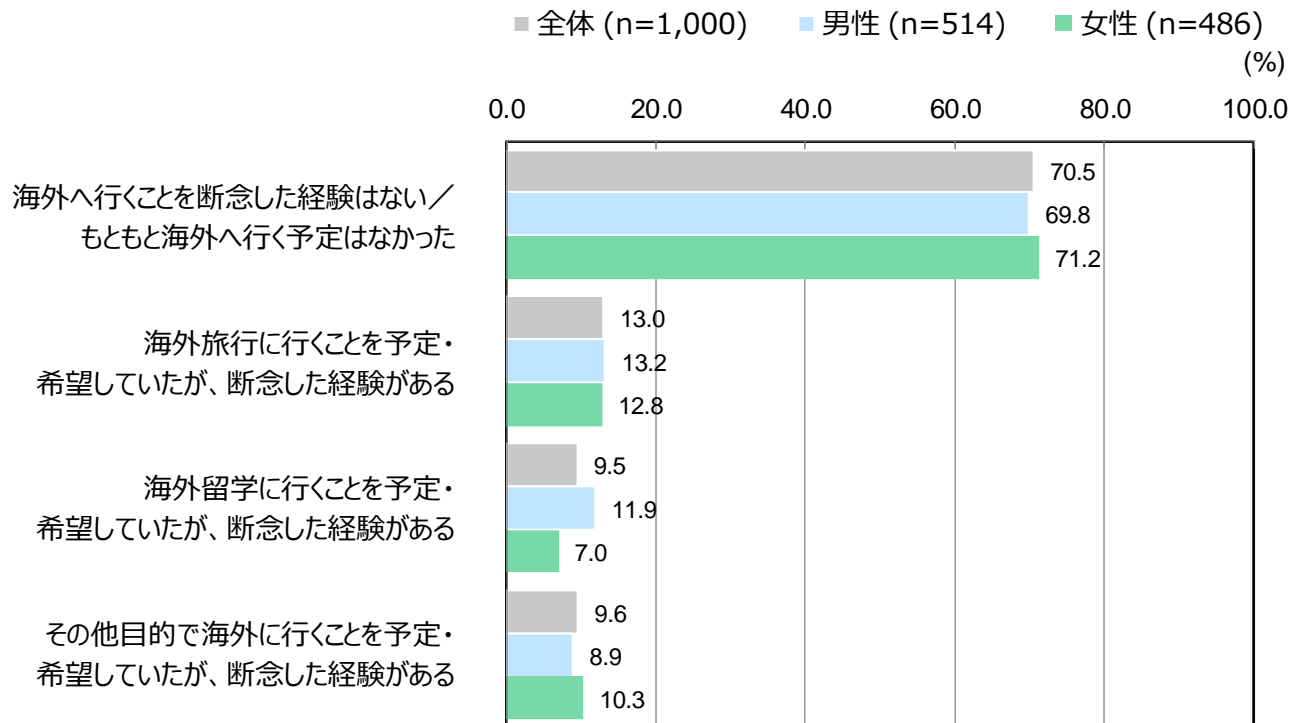
質問7：2022年10月11日から、これまで求められていた海外から日本に入国後・帰国後の入国時検査や自宅又は宿泊施設での待機期間はなくなりました。あなたは、日本に住む人が海外との往来がしやすくなることについて、どのように考えますか。（選択式（単一））



アウトバウンドに対する考え

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、海外へ行くことを断念した経験がある人は、全体で約3割にのぼる。性別でも同様の傾向。

質問8：あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、海外へ行くことを断念した経験はありますか。（選択式（複数））



アウトバウンドに対する考え

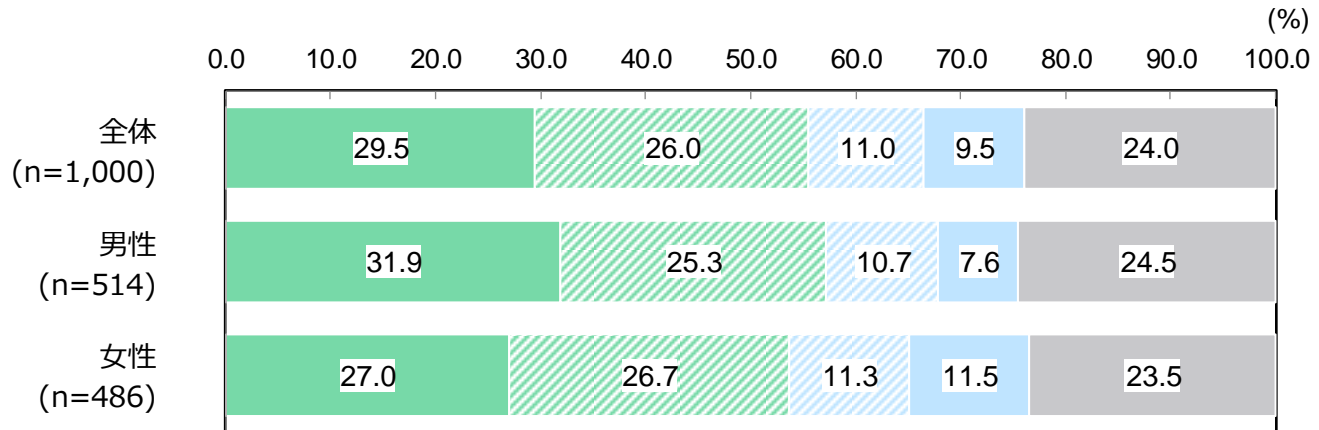
海外から日本に入国後・帰国後の入国時検査や自宅待機期間がなくなったことで、「海外旅行に行きたいと思う」(※)と回答した人は約6割。性別では、女性よりも男性の方が「海外旅行に行きたいと思う」(※)と回答した人の割合が高い傾向。

他方、男女とも2割以上が「新型コロナウイルスの感染状況や水際対策の実施状況にかかわらず、海外旅行に行きたいと思わない」と回答している。

※「海外旅行に行きたいと思う」と「どちらかといえば海外旅行に行きたいと思う」の合計。

質問9：海外から日本に入国後・帰国後の入国時検査や自宅又は宿泊施設での待機期間がなくなった状況のなか、あなたは今後、海外旅行に行きたいと思いますか。最もあてはまるものを教えてください。
(選択式(単一))

- 海外旅行に行きたいと思う
- ▨ どちらかといえば海外旅行に行きたいと思う
- ▨ どちらかといえば海外旅行に行きたいと思わない
- 海外旅行に行きたいと思わない
- 新型コロナウイルスの感染状況や水際対策の実施状況にかかわらず、海外旅行に行きたいと思わない



詳細

1. 水際対策緩和に対する考え
2. 国内観光需要喚起策に対する考え
3. コロナ禍における旅行に対する考え

提示文章

政府は、国内の観光需要喚起策（※1）として2022年10月11日から「全国旅行割（※2）」と「イベント割（※3）」を開始しました。ここからは、政府の国内における観光需要喚起策に対するあなたの考えについておうかがいします。

※1 観光へのニーズを呼び起こす策のこと。

※2 旅行代金の割引とクーポンを付与する全国を対象とした観光需要喚起策のこと。

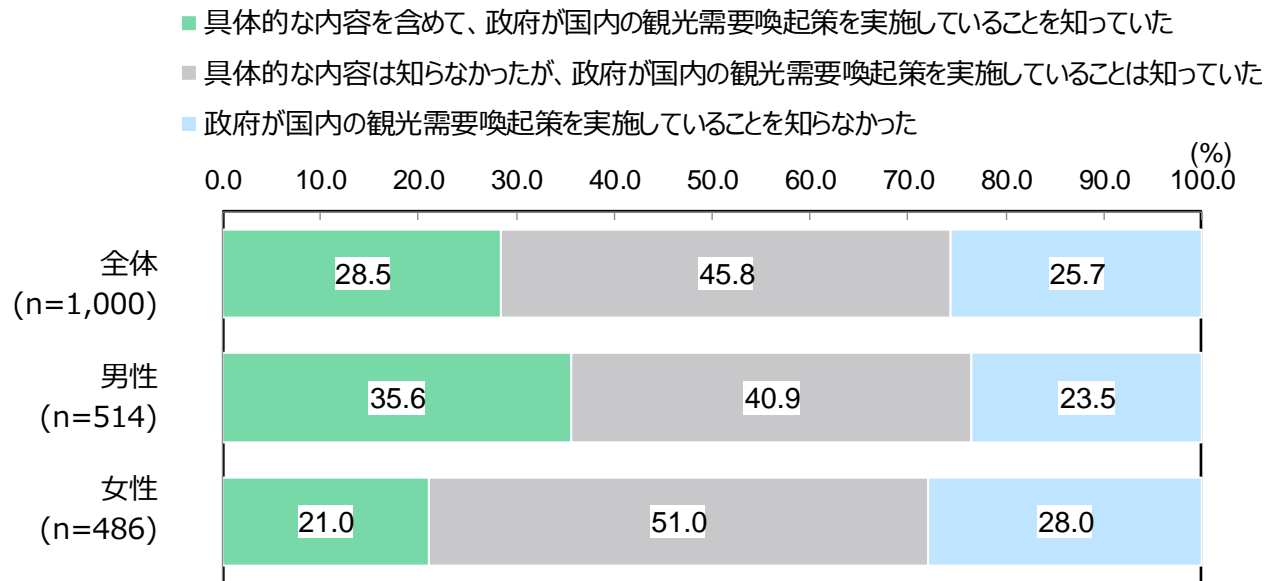
※3 文化芸術やスポーツに関するイベントのチケットの割引をするイベント需要喚起策のこと。

国内の観光需要喚起策に関する認知

政府が国内の観光需要喚起策を実施していることについて、全体では約7割が「知っていた」(※)と回答。性別では、女性より男性の方が「具体的な内容を含めて、政府が国内の観光需要喚起策を実施していることを知っていた」と回答した人が多く、3割を超えている。

※「具体的な内容を含めて、政府が国内の観光需要喚起策を実施していることを知っていた」と「具体的な内容は知らなかったが、政府が国内の観光需要喚起策を実施していることは知っていた」の合計。

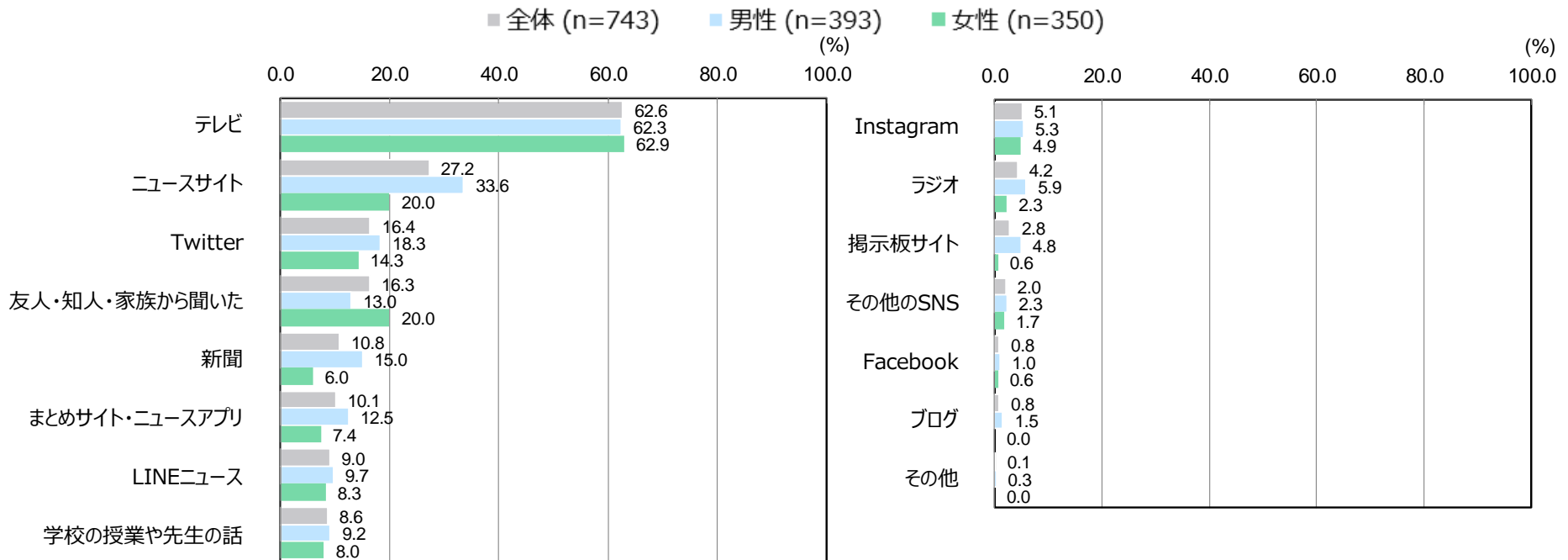
質問10：あなたは、政府が国内の観光需要喚起策として「全国旅行割」と「イベント割」を実施していることを知っていましたか。(選択式(単一))



国内の観光需要喚起策に関する認知

国内の観光需要喚起策の実施について知った媒体としては、「テレビ」と回答した人がもっとも多く、その次に、「ニュースサイト」と回答した人が多い。男性では「テレビ」、「ニュースサイト」、「Twitter」の順に回答した人が多く、女性は「テレビ」、同率で「ニュースサイト」、「友人・知人・家族から聞いた」の順に回答した人が多い。

質問11：政府の国内の観光需要喚起策の実施について、どのように知りましたか。（選択式（複数））

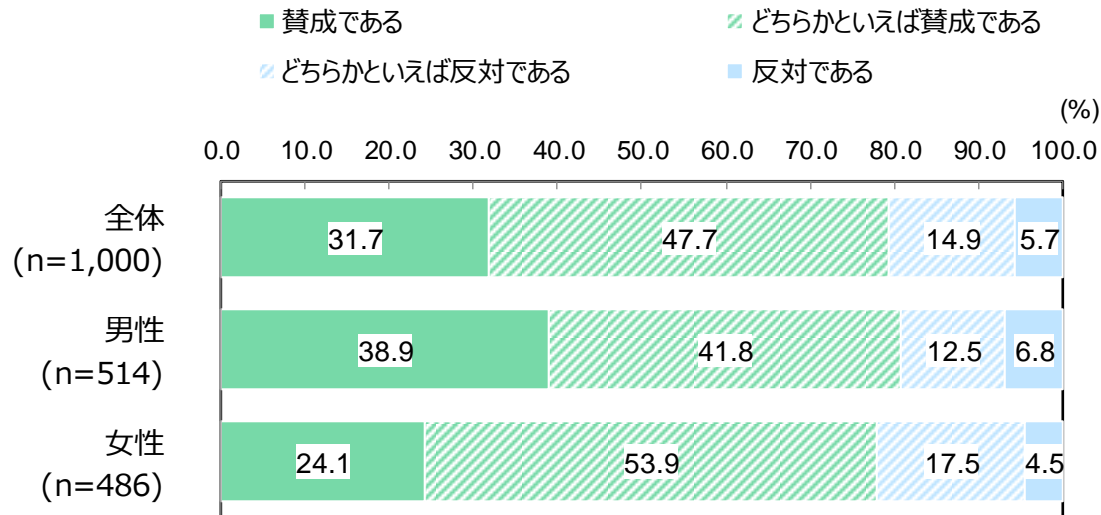


国内の観光需要喚起策に対する考え

国内の観光需要喚起策の実施について、全体では、「賛成」(※)と回答した人が約8割を占めている。性別では、男女とも同程度の割合。

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

質問12：政府による国内の観光需要喚起策の実施について、あなたはどのように考えますか。
(選択式(単一))

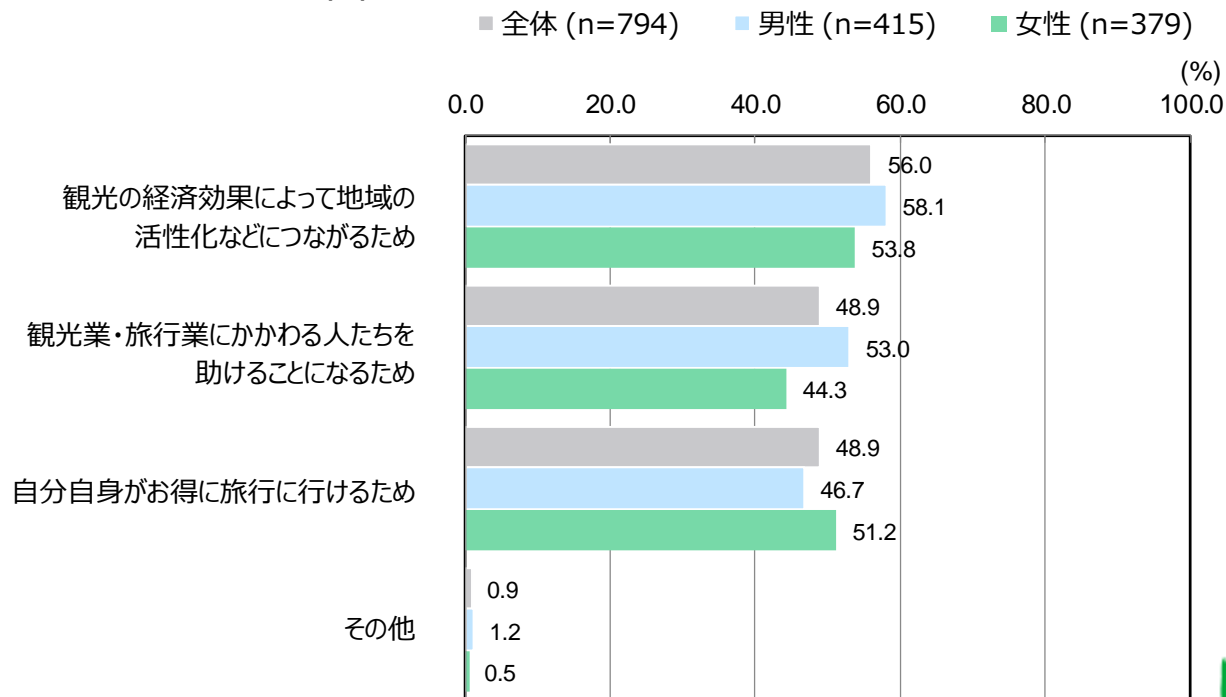


国内の観光需要喚起策に対する考え 賛成理由

国内の観光需要喚起策実施の賛成理由（※）として、男性では「観光の経済効果によって地域の活性化などにつながる」、「観光業・旅行業にかかわる人々を助けることになる」、「自分自身がお得に旅行に行ける」の順に回答した人が多く、女性では「観光の経済効果によって地域の活性化などにつながる」、「自分自身がお得に旅行に行ける」、「観光業・旅行業にかかわる人々を助けることになる」の順に回答した人が多い。

※「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」と回答した理由。

質問13：あなたが、政府の国内の観光需要喚起策の実施に賛成する理由として、あてはまるものを3つまで選んでください。（選択式（複数））



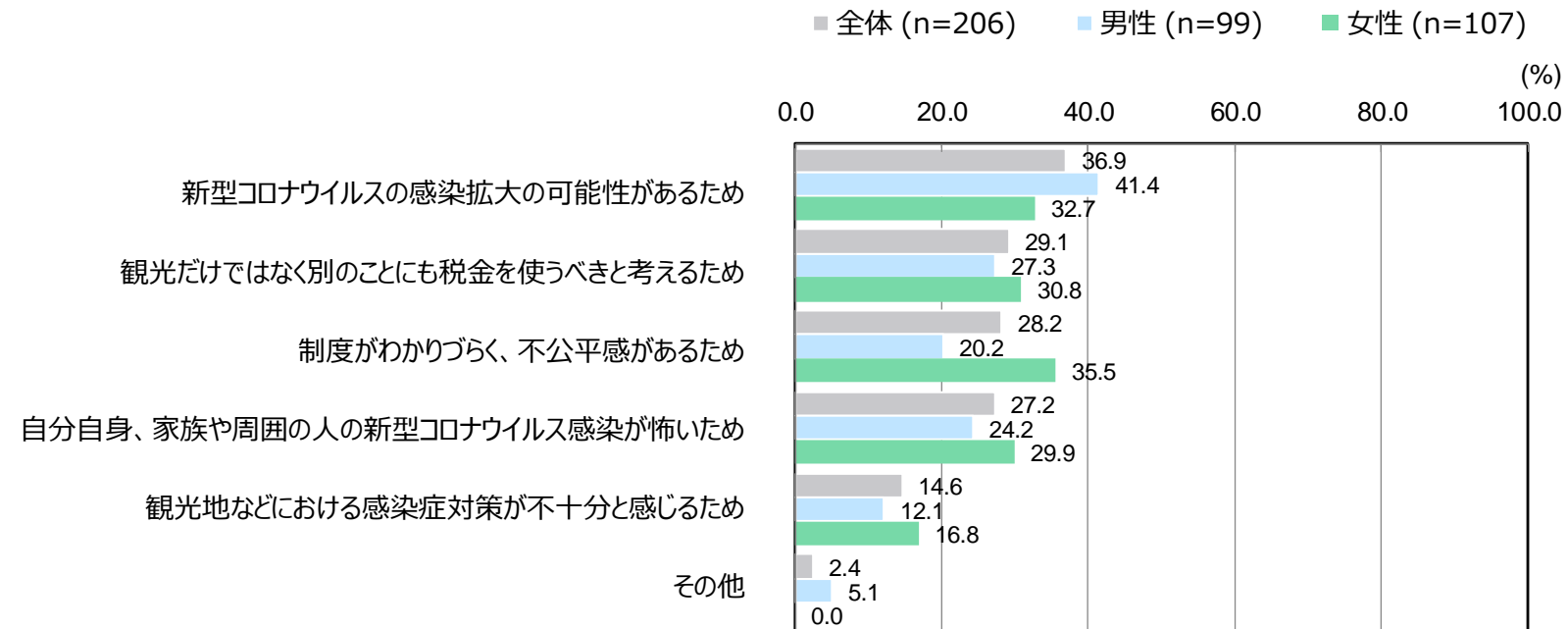
国内の観光需要喚起策に対する考え

反対理由

国内の観光需要喚起策実施の反対理由（※）として、男性では「新型コロナウイルスの感染拡大の可能性がある」、「観光だけでなく別のことにも税金を使うべき」、「自分自身、家族や周囲の人の新型コロナウイルス感染が怖い」の順に回答した人が多く、女性では「制度がわかりづらく、不公平感がある」、「新型コロナウイルスの感染拡大の可能性がある」、「観光だけでなく別のことにも税金を使うべき」の順に回答した人が多い。

※「反対」もしくは「どちらかといえば反対」と回答した理由。

質問14：あなたが、政府の国内の観光需要喚起策の実施に反対する理由として、あてはまるものを3つまで選んでください。（選択式（複数））



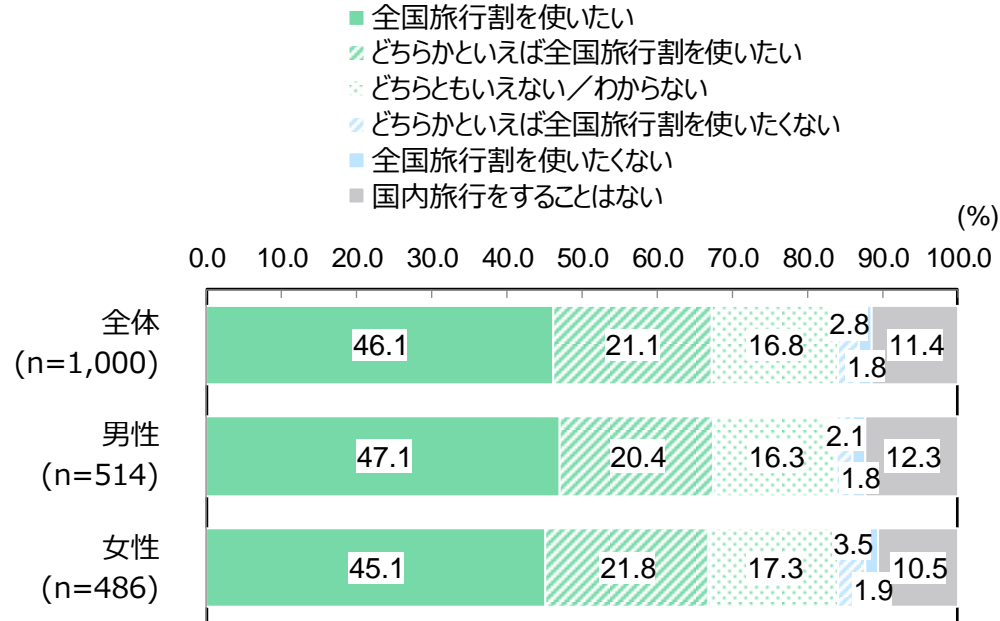
国内の観光需要喚起策に対する考え

全国旅行割利用意向

国内旅行をすることとなった場合、「全国旅行割を使いたい」(※)と回答した人は、全体では7割程度。性別では、男女とも同程度の割合。

※「全国旅行割を使いたい」と「どちらかといえば全国旅行割を使いたい」の合計。

質問15：「全国旅行割」による割引を受ける条件として、新型コロナワクチンを接種していることを証明する新型コロナワクチン接種証明書や有効期限が過ぎていない陰性証明書を提示する等の対応が必要となります（都道府県によって詳細は異なる）。あなたが国内旅行をすることとなった場合、「全国旅行割」を使って旅行したいと考えますか。（選択式（単一））



詳細

1. 水際対策緩和に対する考え
2. 国内観光需要喚起策に対する考え
3. コロナ禍における旅行に対する考え

提示文章

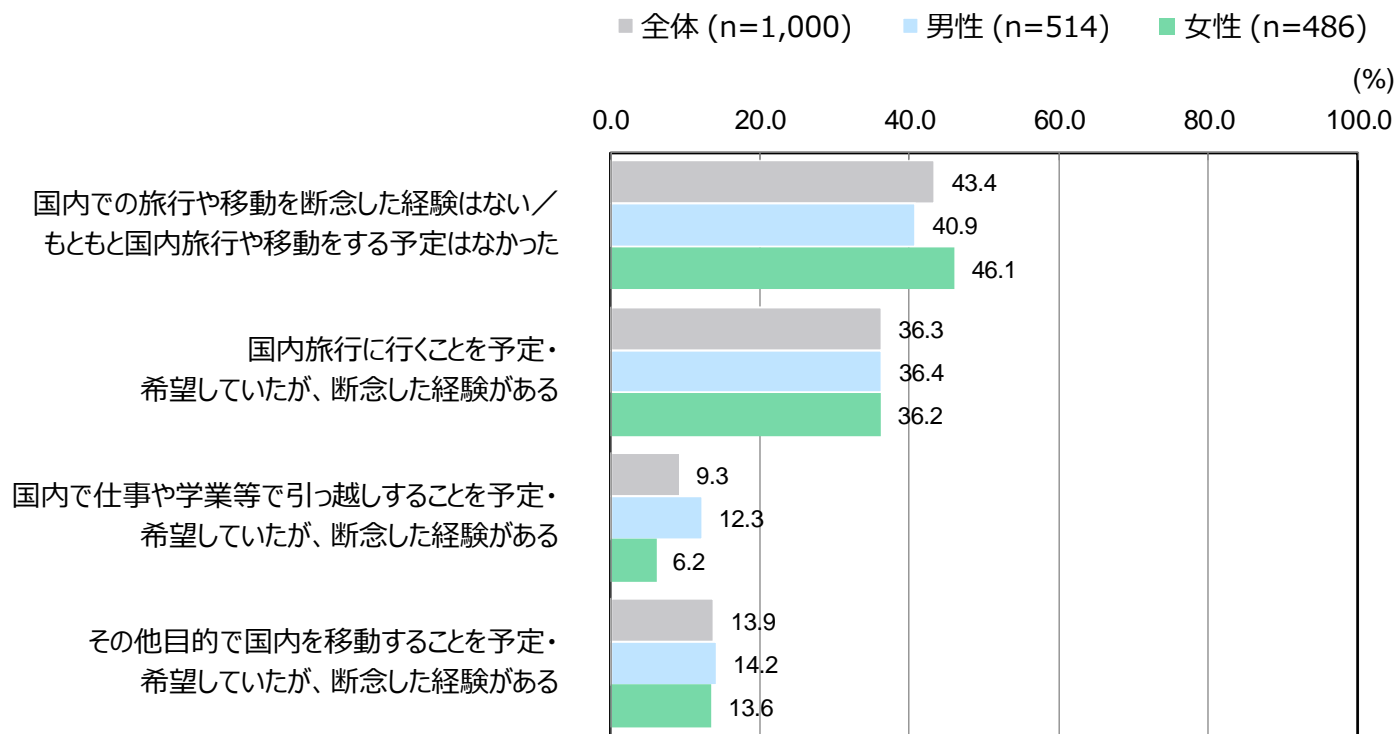
ここからは、コロナ禍におけるあなた自身の旅行への考えについておうかがいします。

コロナ禍における旅行意欲

国内での旅行や移動を断念した経験

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、国内での旅行や移動を断念した経験がある人は、全体では6割程度。性別では、女性よりも男性の方が断念した経験がある人の割合が高い傾向。

質問16：あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、国内での旅行や移動を断念した経験はありますか。（選択式（複数））



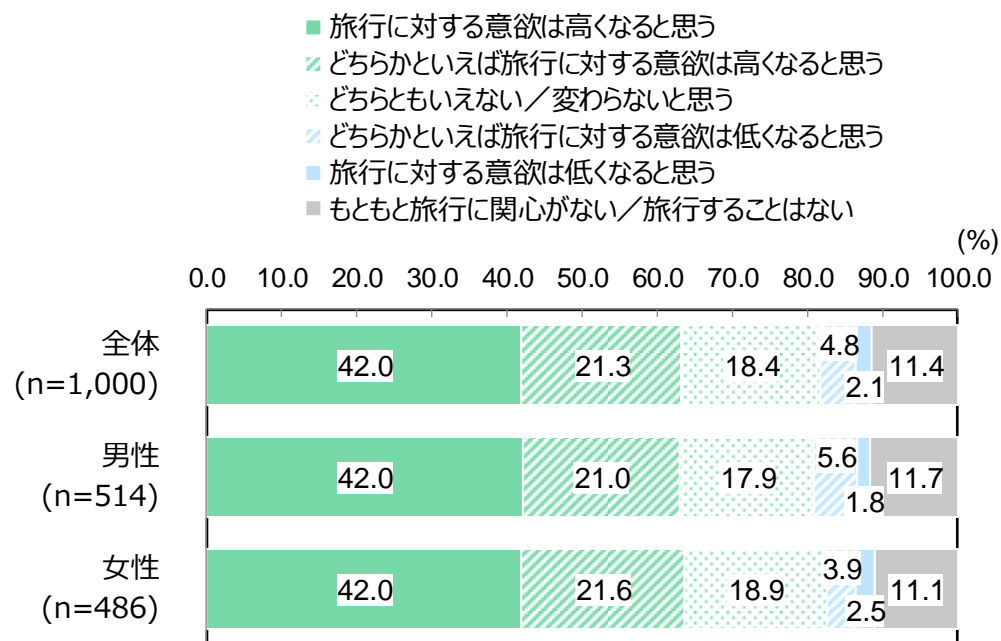
コロナ禍における旅行意欲

コロナ収束後の旅行意欲

コロナ収束後の旅行に対する意欲について、全体では6割が「高くなる」(*)と回答。性別では、男女とも同程度の割合。

※「旅行に対する意欲は高くなると思う」と「どちらかといえば旅行に対する意欲は高くなると思う」の合計。

質問17：新型コロナウイルス感染症が収束したら、あなたの旅行に対する意欲に変化はあると思いますか。(選択式(単一))

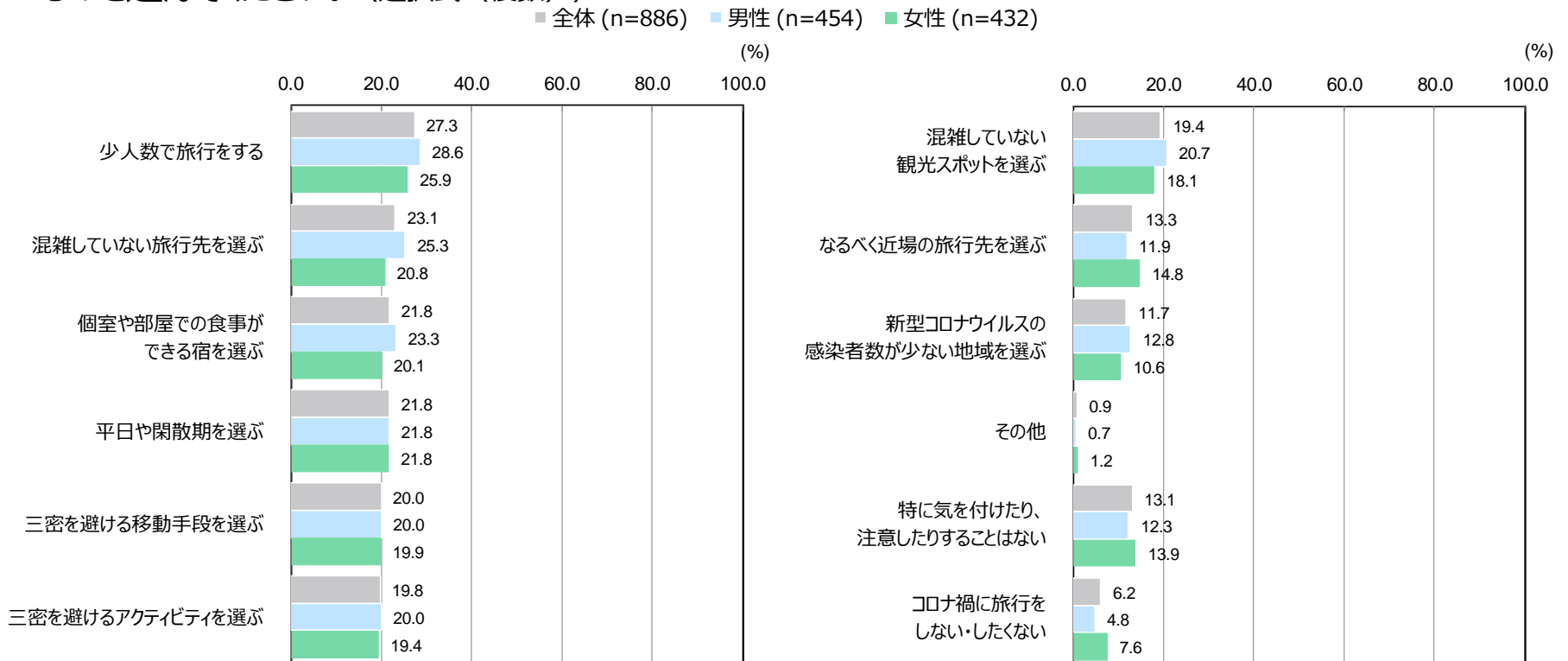


コロナ禍における旅行スタイル

コロナ禍の旅行で気を付けること

コロナ禍での旅行において気を付けることとして、男性では「少人数で旅行をする」、「混雑していない旅行先を選ぶ」、「個室や部屋での食事ができる宿を選ぶ」の順に回答した人が多く、女性では「少人数で旅行をする」、「平日や閑散期を選ぶ」、「混雑していない旅行先を選ぶ」の順に回答した人が多い。

質問18：コロナ禍において旅行する際、あなたが気を付けることはありますか。下記の中からあてはまるものを選んでください。（選択式（複数））



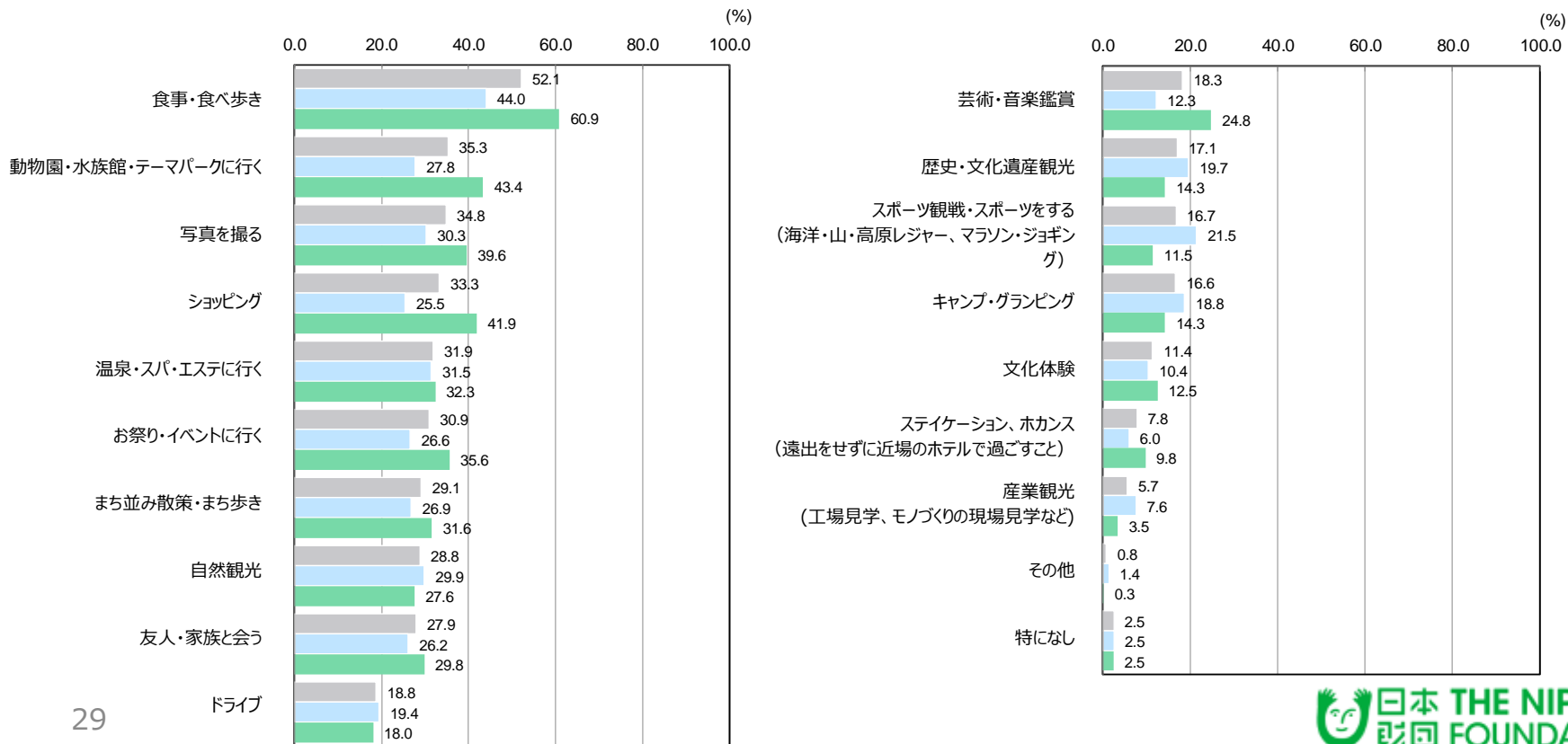
コロナ禍における旅行スタイル

コロナ禍の旅行でやりたいこと

コロナ禍において旅行先でやりたいこととして、男性では「食事・食べ歩き」、「温泉・スパ・エステに行く」、「写真を撮る」の順に回答した人が多く、女性では「食事・食べ歩き」、「動物園・水族館・テーマパークに行く」、「ショッピング」の順に回答した人が多い。

質問19：コロナ禍の現在において、あなたが旅行先でやりたいことと思うことは何ですか。下記の中から当てはまるものを選んでください。（選択式（複数））

■ 全体 (n=831) ■ 男性 (n=432) ■ 女性 (n=399)



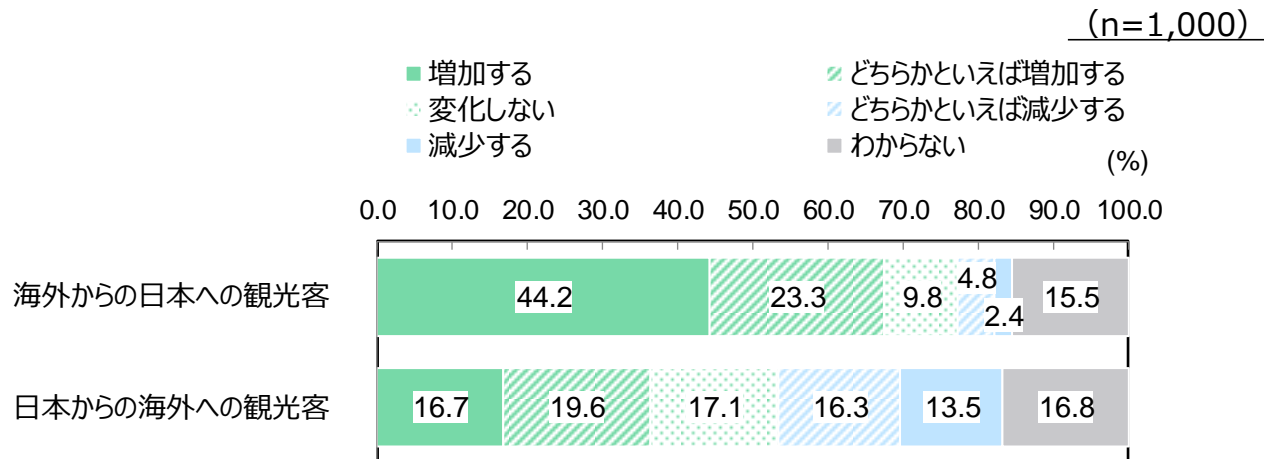
円安による観光への影響

全体では、水際対策の緩和と円安の状況を総合的に考え、海外からの日本への観光客が「増加する」(※)と回答した人は7割弱。一方で、日本からの海外への観光客が「増加する」(※)と回答した人は4割弱となっている。

※「増加する」と「どちらかといえば増加する」の合計。

質問20：水際対策の緩和と昨今の円安の状況を総合的に考えると、日本を訪れる外国人観光客や海外に出かける日本人観光客数は今と比べるとどのようになると考えますか。(選択式(単一))

全体



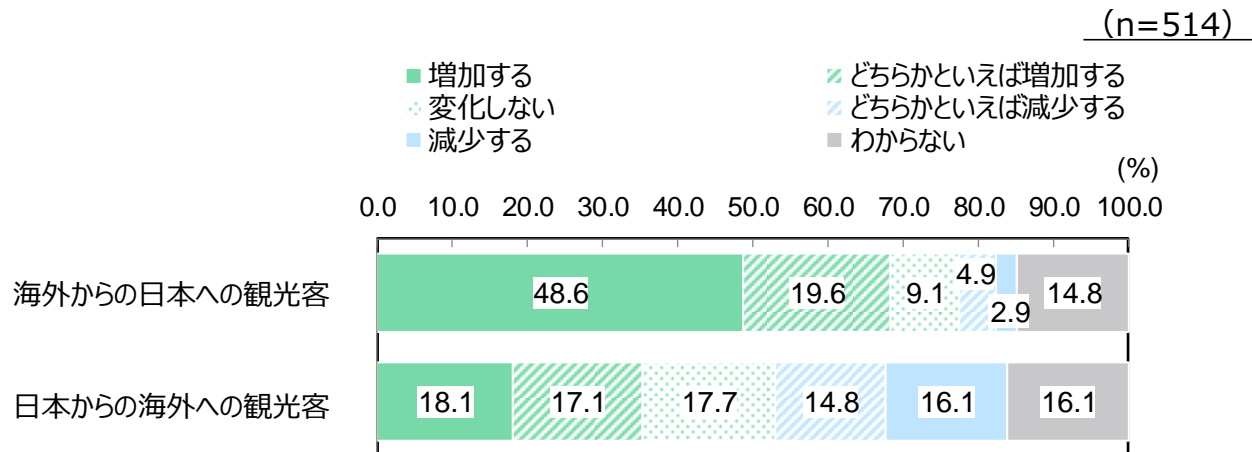
円安による観光への影響

男性では、水際対策の緩和と円安の状況を総合的に考え、海外からの日本への観光客が「増加する」(※)と回答した人は7割弱。一方で、日本からの海外への観光客が「増加する」(※)と回答した人は3割程度となっている。

※「増加する」と「どちらかといえば増加する」の合計。

質問20：水際対策の緩和と昨今の円安の状況を総合的に考えると、日本を訪れる外国人観光客や海外に出かける日本人観光客数は今と比べるとどのようになると考えますか。(選択式(単一))

男性



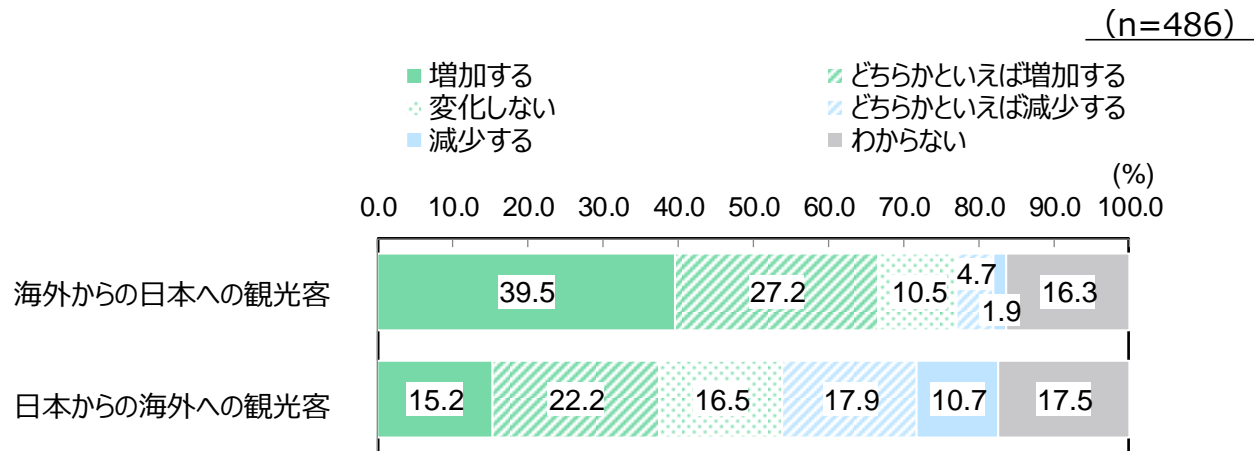
円安による観光への影響

女性では、水際対策の緩和と円安の状況を総合的に考え、海外からの日本への観光客が「増加する」(※)と回答した人は7割弱。一方で、日本からの海外への観光客が「増加する」(※)と回答した人は4割弱となっている。

※「増加する」と「どちらかといえば増加する」の合計。

質問20：水際対策の緩和と昨今の円安の状況を総合的に考えると、日本を訪れる外国人観光客や海外に出かける日本人観光客数は今と比べるとどのようになると考えますか。(選択式(単一))

女性



第51回18歳意識調査「観光」 示唆



コロナによって 失われた機会

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、約3割の若者は海外へ行くことを断念した経験があると回答した。また、国内での移動や旅行についても、約6割の若者が断念した経験があると回答した。コロナ禍における移動の制限によって、多くの若者が海外や国内での活動や経験の機会が失われていたといえる。



インバウンド増加 による経済活性化

若者の約8割が政府によるインバウンドの積極的な誘致に賛成している。また、約7割は政府の水際対策緩和について賛成しており、もっとも多い賛成理由としては「観光客の消費が日本の経済回復につながる」が挙げられている。若者の大半はインバウンドを積極的に増やして日本経済を活性化させることを期待している。



高まる旅行意欲

約6割の若者は、コロナ収束後は旅行意欲が高まると回答している。また、大半の若者は政府の水際対策緩和や国内における観光需要喚起策に対して賛成の考えを示しており、水際対策緩和を踏まえて海外旅行に行きたいと考える若者も多かった。今後は、政府の政策による後押しもあり、若者の旅行が活発化していくと考えられる。



為替の影響

円安の影響と水際対策緩和の影響を総合的に考え、7割弱の若者はインバウンドが増加していくと考えている。他方、アウトバウンドについては、変わらない・減ると回答した若者の割合が、増えると回答した若者の割合を上回る。円安の状況は、若者の海外旅行への意欲にマイナスの影響を及ぼす可能性が高いのではないかと考えられる。